

### ケース 11.3 オランダのマイノリティ

1980年代の初めに、オランダ政府は「マイノリティ政策 (minorities policy)」を正式に採用しているが、それは多くの点でカナダやオーストラリアの多文化主義に似ていた。後にこの政策は、一部の移民集団の社会・経済的並びに文化的統合の妨げになったと公然と批判されるようになる。導入当初より、移民とエスニックな多様性は熱い政治論争の焦点になっていたこともあり、その当時の対応とかなり大きな違いをみせる政策的対応が、政府によって採用され始めている。

2005年にオランダには170万人の海外出生者が住んでおり、それは全人口の10.6%に相当していた。出身国の上位5カ国は、トルコ、スリナム、モロッコ、インドネシアそしてドイツであった(『国際移民の時代〔第4版〕』335頁参照)。2005年の外国人居住者人口は、69万1,000人であった(全人口の4.2%に相当する)。2つの数値が異なるのは、移民が国籍を取得して市民になることが多いことを示している。2005年までに100万人以上の市民が二重国籍をもっていたと見積もられているが、その半数近い人々はトルコ国籍やモロッコ国籍を同時にもっていた。

1970年代に、エスニック集団は、オランダの大都市に集中し(アムステルダム、ロッテルダム、ハーグ、ユトレヒトなど)、特定の近隣に集住して目立つ存在となっていた。モロッコ人、トルコ人、スリナム人とアンティル諸島人の労働者は、1980年代の経済構造の再編によるさまざまな不利益を被るようになり、失業率が20-40%に達する外国人集団も登場した。後に失業率は低下したものの、2004年の時点での非ヨーロッパ系外国人労働者の失業率は、なおオランダ国民の平均の3倍であった(Statistics Netherlands, 2005)。

1980年代のオランダは、労働現場や公共の場所における人種差別を禁止する法を制定していた。自治体選挙への参政権も外国人市民に与えられた。1983年のマイノリティ政策は基本的に多文化主義の原理の上に成り立っており、移民集団を集団として社会に統合すると同時に、文化的アイデンティティを維持するための社会政策の必要性を強調するものであった。地中海沿岸諸国からの労働者とその家族、スリナム人やアンティル諸島人、モロッコ人、難民(庇護希望者ではなく)、ジプシーやキャラバン住民をも対象とするものであった。

しかし、マイノリティ政策は失業や教育達成度の低さ、社会的不利益を改善するうえで役割を果たさなかったとして批判されるようになった。1994年には、新しい統合政策が導入された。同法には2つの要素が含まれていた。新来移民への支援政策としてオランダ語教育や社会教育、職業教育訓練を施すことに加えて、移民個々の教育への参加と労働への市場参加を確実にするための、個人行動の自己管理を支援することであった。統合政策は、マイノリティの若者の教育と労働市場における地位の向上、住民の居住分離ではなく、共生を促進することを目的としていた。

### ケース 11.3 オランダのマイノリティ

しかし、近年では移民に対する態度や政策に大きな変化がみられるようになってきた。最初の第1歩は、1998年の「新移民の市民への統合法」が定められたことにあり、同法は移民の統合コースへの参加を強制するものであった。しかし当時は、反移民政策を掲げるピム・フォルトウィン [とその支持者の党 (PFL)] が国民の大きな支持を受け始めたことに大きな衝撃を感じる観察者は少なくなかったが、そのフォルトウィン党首が2002年 [の総選挙中] に暗殺されたこともあり、PFLは第2党に躍進し、パートナー政党として連立政権を組むまでになっただけでなく、移民大臣のポジションを確保したのである。しかしながら、2003年にはPFLは内紛を起こして分裂し支持を失うとともに議席も失った。キリスト教民主主義系の政党と社会民主主義系の政党の連立政権が復活したが、移民政策変更の公約は引き継がれた。

新しい移民政策は制限的なものであり、とくに家族呼び寄せ移民を制限していたため、移民の流入は減少した。2005年の移民受入数は6万3,000人だったが、1988年以来の最低数値であった。そして政府は、庇護申請を却下された者を強制送還すると宣言した。これによりオランダの歴史的な異文化に対する寛容性は、「移民は統合される義務がある」とか、「移民によりオランダ社会は危機にある」などの非難に置き換わった。批判の対象は主にムスリム系のマイノリティたちであった。2004年には、映画監督テオ・ファン・ゴッホ (Van Gogh, Theo) が家庭内暴力に苦しむムスリム女性の経験を映画にしたことで、ムスリムのモロッコ系オランダ人により暗殺されたことは、さらに事態を悪化させることになった。

2006年に政府はオランダ語とオランダ社会についての移民の習熟度を確かめるために、入国前に移民希望者に「市民統合試験 (civic integration examination)」を課すための法律を導入している。2007年1月より施行された新統合法は、新たな市民統合試験を導入し、移民が無期限の永住許可を得るために受験しなければならないとした。統合試験を受験するための予習授業コースは民間の手に委ねられ、移民は自費で予習コースを受けなければならなくなった。さらにオランダのシティズンシップを獲得した者は、強制的な帰化証授与式に出席しなければならなくなったのである。

オランダは、1980年代の多文化主義政策から新しい形態の強制的同化主義政策に移行しつつあるように見える。オランダのこの性急な変化は、ヨーロッパ全体の移民政策とマイノリティ政策が大きな危機を迎えたことを示す、先駆的な事例だと多くの人々がみなしている。

#### 【参照文献】

- CBS (2006) *Over one million Dutch citizens have dual nationality*. (Voorburg/ Heerlen: Statistics Netherlands) <http://www.cbs.nl/>. accessed 20 April, 2007.
- Entzinger, H. B. (1985) 'The Netherlands' in Hammar, T. (ed.) *European Immigration Policy: a Comparative Study* (Cambridge: Cambridge University Press).

- Entzinger, H. (2003) 'The rise and fall of multiculturalism: the case of the Netherlands' in Joppke C. and Morawaska, E. (eds.) *Towards Assimilation and Citizenship: Immigration in Liberal Nation-States* (Basingstoke: Palgrave-Macmillan).
- EUMAP (2007) *The Netherlands: Executive Summary* (Vienna: EU Monitoring and Advocacy Program). <http://www.eumap.org/>.
- Muus, P. J. (1991) *Migration Minorities and Policy in the Netherlands: Recent Trends and Developments—Report for SOPEMI* (Amsterdam: University of Amsterdam Department of Human Geography).
- Muus, P. J. (1995) *Migration Immigrants and Policy in the Netherlands—Report for SOPEMI 1995* (Amsterdam: Centre for Migration Research CEMIO).
- OECD (2007) *International Migration Outlook: Annual Report 2007* (Paris: Organisation for Economic Cooperation and Development).
- Statistics Netherlands (2005) *Unemployment growth rate among foreigners slowing down* (Voorburg/Heerlen: Statistic Netherlands) <http://www.cbs.nl/>, accessed 19 April, 2007.
- Vasta, E. (2007) 'From ethnic minorities to ethnic majority policy: multiculturalism and the shift to assimilationism in the Netherlands'. *Ethnic and Racial Studies*, 30:5, 713-40.